

安楽寺寺報

開光

第87号
降誕会号
2018/5/21

発行所
〒737-0054
呉市上山田町2-28
安楽寺
TEL0823-21-7561

人権感覚

信楽晃仁

近頃、新聞やテレビで取り上げられるニュースを見ていると、どうも現代人の人権感覚が低下してきているように思います。

一時「セクハラ」という言葉がテレビ新聞等を随分賑やかしました。財務省の事務次官やどこかの市長もセクハラが発覚し辞任しました。セクハラに限らず、他にもパワハラ、モラハラ、マタハラと色々なハラスメントがあります。「〇〇ハラ」のハラが「ハラスメント」のことで、「本人の意図にかかわらず、他人を不快にさせたり、傷つけたり、不利益や脅威を与える」というのです。言ってみればはじめのことです。ただこの「本人の意図に関わらず」というのがくせ者で「そんなつもりじゃ

なかった」と自覚していないのですから、反省もしません。事務次官もセクハラではなく「言葉遊び」だと言っていますし、

じゃなぜ辞任したのかと聞けば、報道陣が来て仕事にならないからだというのですから、どうしようもありません。全く反省も、謝罪もありませんし、大臣も一緒に擁護しているのですから、何の解決にもならないわけですね。そのかげで苦しんでいる人がいるわけです。



この感覚、これが低下した人権感覚だと思えます。しかしこれも次々と新しい問題が出てきて、もう昔のことと忘れそうになります。

また土俵が女人禁制という相撲にも納得がいきません。相撲協会はこれを差別ではなく伝統だと言います

が、私たちは女人禁制の根拠は穢れという誤った思想が元になっていることを学びました。神聖な土俵に不浄なものは上げられないということです。そんな意味で、女性を土俵に上げないのなら大変な問題です。相撲は国技だといいい、相撲協会は公益財団法人として、国からの多額の補助金が入っています。女性が除かれるのに公益と言えるのでしょうか。これには大変な疑問を感じます。

こうしたことを見えていますと、現代社会は差別といじめに満ちあふれています。人権感覚の低下が差別を助長し、それがいじめにもなり、様々な問題にも発展して行くのだと思います。

あるお母さんが「幼稚園でもみんなと仲良くしましょうと教えられる、小学校でも人に優しくして仲良くしましょうと六年間育てられ、そして中学校でも同じように、いじめはいけません。みんな仲良くしましょうと教えられ、どこでもそう育てられたのに、なぜいじめがなくな

らないんでしょう」と。脳科学者の中野信子氏が書かれた「ひとはいじめをやめられない」という本があります。人間は動物の中でも弱い動物で、身体的にも他の動物と戦って生き残る能力をもっていません。その人間がどうやって生きてきたかという、集団を作ることでも生き残ってきたというのです。集団になることで生き残った歴史を持つ人間は、集団の和を乱すものを許しません。自分たちの身を守るためにも、集団に協力しない、そして和を乱すものは、制裁や排除することで、集団を守り集団のつながりを強くしようとするわけです。そういった進化、人間の生き延びた歴史から、人間の中には常に、集団に反するもの、自分たちの集団が正義とするものに、従わないものには制裁行動や、排除行動を行うようになっていくのです。それが自分の組織を守るためには必要であったりします。そのためにも不可欠であったりします。その上、その集団の正義を守るための制裁は、自分の中にドーパミンという脳内ホルモンの分泌をうながし、

安楽寺マンガ通信

その37 信楽めぐみ作



先日友達と湯もみじ有名温泉に行きました！その日光東照宮の有名な三猿がいきましたー



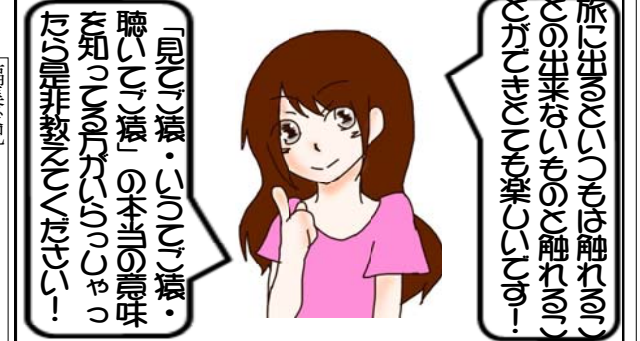
本日は「自分の利益を優先する」が「他人の利益を優先する」という意味を知りました。私にはあまり美味しく感じませんでした。お店の雰囲気もあまりよくなく、これでまた来ようという人がいるのかと疑問でした。

「自分の利益を優先する」というのは、自分自身を守るための行動です。それは悪いことでもありません。ただ、他人の利益を優先することも、時には必要です。それが、社会で生きていくための鍵かもしれません。



「自分の利益を優先する」というのは、自分自身を守るための行動です。それは悪いことでもありません。ただ、他人の利益を優先することも、時には必要です。それが、社会で生きていくための鍵かもしれません。

「自分の利益を優先する」というのは、自分自身を守るための行動です。それは悪いことでもありません。ただ、他人の利益を優先することも、時には必要です。それが、社会で生きていくための鍵かもしれません。



「自分の利益を優先する」というのは、自分自身を守るための行動です。それは悪いことでもありません。ただ、他人の利益を優先することも、時には必要です。それが、社会で生きていくための鍵かもしれません。

「自分の利益を優先する」というのは、自分自身を守るための行動です。それは悪いことでもありません。ただ、他人の利益を優先することも、時には必要です。それが、社会で生きていくための鍵かもしれません。

先に与えることの大切さ

信楽慧

最近、美味しいと評判の牛カツのお店に行くことができました。会社の近くであり、いつも長蛇の列が出来ていたのですが、その日は列もなく、すぐに入る事ができました。並ぶこともなく、すぐに入れてよかったのですが、期待していた牛カツが来て、実際に食べてみると、僕にはあまり美味しく感じませんでした。お店の雰囲気もあまりよくなく、これでまた来ようという人がいるのかと疑問でした。

そんな時にふと考えたのは、渋谷駅の近くということで立地条件がよければ、人は必ず入ります、何万人とこの前を人が通るわけですから、その数%でも、入ってくればいいわけです。一度美味しいと評判が広がれば、お客さんには困らないのかなと思いました。しかしもしそういう気持ちであれば、経営はできたとしても誰も幸せにならないだろうと思いますし、長くは続かないと思います。

仏教には自利利他という考え方があります。自らの利益と他者の利益が重なることだと思いますが、まず他に利益を与えることが、自らの利益にも通じると言うことだと思います。

普段の生活や、仕事においても大切なことだと思います。僕も自分の利益をまず考えるのではなく、相手の利益が、自然と自分への利益となってくると言うことを、思いながら動いていこうと思いました。



少し残念な牛カツでした。

夏の集いお休み

毎年開催しておりました夏の集いですが、今年はお休みさせていただきます

編集後記
先日、日本最西端、長崎の野母崎と言われているところまで行ってきました。友人の住職職法要で、五時間かけて長崎まで行き、長崎から一時間バスに揺られて、野母崎に到着しました。そのバスの中からは、軍艦島が近くに見えていました。お寺へは、二日間わたる盛大な法要でした。帰りがけ、長崎の平和公園へお参りし、隠れキリシタンの教会を回って帰りました。九州にはかくれ念仏もあり、宗教受難の地が多くあります。その教会に当時の踏み絵がありました。傷ついた木製の踏み絵を見つ、今私たちが何と恐れることなく念仏申し、寺に参れることを有難く思うことです。

お念仏のしずく

「称名と聞名」その2

念仏の心において、仏と出あい、その慈悲のあたたかさを体感するという事は、このような自己自身への深い目覚めとひとつになつて成り立つものなのです。すなわち念仏を申すということは、この私自身は、地獄は一定にして、とうてい助からぬ身と知らされてゆき、その助からぬ自性のままに、念仏を申し、仏に出あい、その慈悲を体感、味識してゆくのです。源信和尚が「極重の悪人は他の方便なし」といわれ、法然上人が「仏の本願によるが故に」と明かされた意味がここにあるわけです。念仏とはいかにしても助からぬもののために開かれた、ただひとつの助かる道であり、念仏とは、仏の本願に誓われた道であるが故にこそ、間違ひなく助けられてゆく道なのであります。

かくして、真宗の仏道としての称名念仏とは、私が選びとつて申すべき行為でありながら、それは決して私の行為に価値があるものではなく、またその念仏において



自分を補強しようと考へてはなりません。念仏において、私自身が問われ、砕かれてゆくのです。すなわち、私から仏への方向において成り立つ称名念仏とは、そのまゝ仏から私への方向をもつところの聞名念仏、仏の喚び声を聞き、仏に念ぜられて生きる、ということへの目覚めでなければなりません。仏を念ずるとは仏に念ぜられていることである。仏の名を呼ぶことは、仏の喚び声を聞くことである。称名とは聞名である。

『この道をゆく』

安楽寺法要案内

六月	永代経	日時 6月16日(土)・17日(日) 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 大阪 自然寺 加藤 順 教 先生 講題 他力本願 ~幸せになるために生きてきた~
七月	安居会	日時 3月11日(日) 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 世界人権問題研究センター 源 淳子 先生 講題 「人生の終わりに臨んで」
八月	歡喜会	日時 8月13日(月)・14日(火) 両日とも10:00~11:00 講師 住職自勤 講題 先祖を訪ねる
九月	彼岸聴石忌	日時 9月22日(土) 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 福岡 明願寺 久保山 教 善 先生 講題 信不具足の金言~得者を得ず~



安楽寺本堂修復について ご協力をお願い

昭和51年建立の安楽寺本堂も、40年の歳月を経ました。経年劣化により、外壁の老朽化が進み1、2階の屋根下部分のコンクリートの剥離が数十カ所にわたります。壁面には数カ所の亀裂が入り、そこから雨水がしみ込み、中の鉄筋の腐食が進んでいるようです。そうした劣化をおさえ、今後の本堂内部の保全と、参拝者の安全確保の為、下記の通り本堂改修に当たることとなりました。

既にご門徒の皆様には別便にてご案内し、ご協力をお願い申し上げた所ですが、ご縁の皆様にも応分のご協力を頂ければ有難く存じます。

先祖の遺してくれた仏法を後の世まで伝え続けるために昔から永代経が勤められました。その先祖のお心を受け継ぎ、ご協力を頂けるようでした幸いです。

- 記
- 1, 総工事費 500万円
 - 2, 工事期間 7月~8月
 - 3, 懇志依頼 ご喜捨(ご随意)
- ※安楽寺に封筒や趣意書もごさいます。又ご連絡いただければお届けいたします。ご質問がありましたら、何なりとお尋ね下さい。



喜びや快感に繋がる事です。集団の秩序を守るため、自己防衛という大義名分の元でいじめをするわけですので、エスカレーターはしても、ブレーキはききません。むしろこの行為によって、組織を守り、正常化し、皆が幸せになるのだと思っているのです。中野信子氏は、だから「いじめをやめられない」とあきらめるのではなく、みんな人間はいじめに向かう本性を持っているのだから、そのことに気づいて、自らを見つめ、そのいじめ行動に走らないように、脳をコントロールする必要があります。があると言われるのです。

夫婦げんかでもそうです。皆さんはけんかの後、口をきかないと言うことはありませんでしたか。家族という集団の中で、その家族のルールを乱すもの、私の正義にそわないものは、無視という制裁と排除をしませんでしたか。自分を振り返ってみてそういう行動に思い当たります。計画したのではなく、当たり前のようにそうしています。いじめは子ども

暮らしの中の仏教語

『正直』(しようじき)



すっかり日本語になってしまいました。ただし基の意味はもっと深遠なもので、例えば『法華経』方便品に「諸の菩薩の中に於て、正直にして方便を捨て、ただ無上道を説く」とあるように「まっすぐに究極の真実に徹する」というのが「正直の原意だったのです。たとえば、いかにも難しげに

聞こえますが、本当は難しいことではなく、「仏の心のままに」という素直な気持ちになり、そんな気持ちで物事を行えば、それがそのまま「真実に徹した」ことになるわけでしょう。

徳川時代、鈴木正三という偉大な禅僧がいました。その正三に向かつてある商人が「私は物を売り買ひして利益を得る事を業としていて、悟りの道に進むことができません。どうしたらいいでしょうか」と尋ねたのに対して

「商売にも心づかいが必要だ。」といふ「その心づかいというのは、一筋に正直を心がけることだ」と教えています。この「正直」にも、嘘やごまかしをしないという通常の意味もあります。鈴木正三がいった本意は「と深く、「仏の御心に添う素直な心」という事だったといひます。みんながこういう心で商売をしておれば、もめることはありません。何事もこの正直の心があればいいのですが。

「私だけの問題ではなく、全ての人の問題で、政治でも、スポーツでも、学校でも、職場でもどこでもおこるのです。このように今脳科学で明らかにされたことですが御本願には既にそのことが説かれています。四十八願の第三願が悉皆金色の願、第四願が無有好醜の願です。これが差別の問題とする願文です。色や形による差別のない世界を実現すると誓われ、差別のない世界こそが幸せに至ることのできる道なのだと思えて下さっています。御本願にはその差別の心が私の中にあるから、なくしたいと願われているのです。私たちの心の中には差別といじめの心が備わっています。その自覚がなければ、知らぬうちに人を傷つけ、地獄を作っていくのです。その私に姿に気づくとき、少しでも地獄を作らずにすむのだと思ひます。

前述のお母さんが最後に言われたのは「やはり親が問題なんだと思ひます」と。親、そして大人が問題なのです。小学校では道徳の授業が始まりました。文科省HPには「よいことと悪いことの区別をし」「うそをついたり、ごまかしをせず、素直に」「友だちと仲良くし」「約束や

決まりを守る」と出ています。私たち大人は大丈夫でしょうか。また同じく文科省は、人権感覚の育成に言及し「自分の大切さと共に他の人の大切さを認めること」のできる人権感覚を育てることで「いじめ」を許さない態度が生まれる、と述べています。確かにそうでしょうが、やはりこの私はどうなのかという視点が常に必要になると思うことです。仏教は自覚の宗教と言われます。常に自らを見つめ、自覚しながら歩む必要があります。脳科学者も同じことを言ってくれています。子どもは大人の背中を見えています。